

慢性痛  
急性痛

香曾我部義則先生の今月のカルテ

vol.119

# ペインクリニックの現場から

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生と藤井洋泉先生が、痛みの治療や緩和についての情報を届けてくれる「ペインクリニックの現場から」。前回に続き「踵(けん) 靭帯(じんたい) 付着部症」の治療について話をしてくれま



■プロフィール こうそがべ・よしのり  
昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に。平成16年から現職。日本麻酔学会指導医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

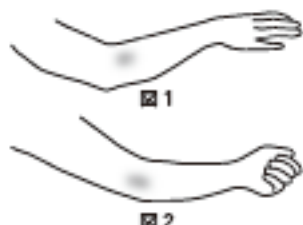


図1・村外側に痛みが出るテニス肘  
図2・村内側に痛みが出るゴルフ肘

「踵・靭帯付着部症」は、まずは薬物療法、理学療法、患部への注射などの保存的治療を 慢性的な痛みには手術治療も考慮

腫れ付着部に由来する痛位への刺激・負担を避け、みは、当該部位に強い圧することが大切です。痛を認めます。治療は、保存的療法とみ強い場合、完全休養手術療法に分けられ、保存を指導します。軽症の場合、保存的治療の第一は、安静合、プレー時間の短縮など、急性期は炎症が生じるので、それぞれの部

スポーツ障害では、痛塗り薬を使用、内服薬は炎症を鎮める非ステロイド性鎮痛薬(NSAID)を使用します。理学療法 ホットパックス、レーザー、超音波などの温熱療法があり、急性の痛みが強い時期には患部を冷却します。 器具 テニス肘(ひじ)では、腫れ付着部を圧迫固定し、伸筋群の動きを抑え痛みの軽減を図るテニス肘バンドがよく使われます。足底筋膜炎では、靴の調整、足裏のアーチを保持する器具を使用します。 ストレッチ・筋力強化 2週間程度は痛みが消失・運動療法 踵・靭帯付着部痛で大事なことは、ストレッチと筋力強化です。特に伸筋群のストレッチを心掛けま

スポーツ障害では、痛塗り薬を使用、内服薬は炎症を鎮める非ステロイド性鎮痛薬(NSAID)を使用します。理学療法 ホットパックス、レーザー、超音波などの温熱療法があり、急性の痛みが強い時期には患部を冷却します。 器具 テニス肘(ひじ)では、腫れ付着部を圧迫固定し、伸筋群の動きを抑え痛みの軽減を図るテニス肘バンドがよく使われます。足底筋膜炎では、靴の調整、足裏のアーチを保持する器具を使用します。 ストレッチ・筋力強化 2週間程度は痛みが消失・運動療法 踵・靭帯付着部痛で大事なことは、ストレッチと筋力強化です。特に伸筋群のストレッチを心掛けま

お答えは、梶木病院北区西花尻)の香曾我部先生です。 ☎086(293)0000